

---

# 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

## センターだより 第159号 (通巻第226号)

---

2018年3月1日 発行  
山梨大学教育学部  
附属教育実践総合センター  
TEL 055-220-8325、FAX 055-220-8790  
E-mail: jissen@ml.yamanashi.ac.jp  
URL: http://www.cer.yamanashi.ac.jp/

### ■ 山梨大学教師塾「初任者元気アップ講座」の開催報告

平成30年2月19日(月)、晴れて教員採用試験に合格し4月から教壇に立つ予定の学生や、将来教員を目指している学生たちを対象に、山梨大学教師塾第2弾「初任者元気アップ講座」を開催しました。当日は、8名の学生が参加し、有意義な時間を過ごしました。

講師としてお迎えした先生は、藤原裕一先生(甲府市立玉諸小学校主幹教諭)、萩原喜成先生(甲府市立南中学校主幹教諭)、高村晴夫先生(甲府市立朝日小学校校長)の3名で、御自身の経験をもとに、小・中学校の現状や管理職として初任者に望むこと等について、講義をいただきました。初任者としての心構えや学級開き・授業づくりの手だて、部活動指導や保護者対応など多岐にわたる内容で、中には演習も交えていただきました。具体的には、「教師は常に学ぶ姿勢を持つこと」「初任者には若さという強みと経験不足という弱みがある。この両方を知ること」「教師の取組はすべて子どもたちの健やかな成長のため」「何事にもチャレンジすること」「誠意はスピード」「教師の押し付けではなく、子どもと一緒にルール作りをしよう」などのお言葉をいただき、参加者の心配や不安を解消できるような時間となりました。さらに質問タイムには、「学級開きの具体的な方法やアイデアを知りたい」という質問が出され、講師の先生方に具体的な手立てを御教授いただきました。

4月から教師として子どもたちの前に立つ学生たちには、今回の講座を参考に、自分の夢を子どもたちと一緒に追い求めていただきたいと思いました。そして、参加者の目の輝きからは、子どもたちにとって、魅力的な先生にきつとなるだろうと思いました。

#### ◆参加者アンケートより(抜粋)

- ・ とても分かりやすくてよかったです。
- ・ 家庭訪問のお話のような、そんなことがあるんだ!とびっくりするようなお話を聞いて良かったと思います。
- ・ 学級指導や子どものかかわり方など、貴重なお話を聞くことができ、改めて自分を見つめなおす機会となりました。
- ・ 現場の先生が、直にお話しして下さることが、本当に魅力的でした。
- ・ 不安に感じていた部分が多かったので、現職の先生方のお話がとても心強かったです。来年度に向けて、やる気もUPしました。



- ・ 学級経営（学級開き）、授業について、保護者対応など、非常に広い範囲での内容構成で、不安に思っていた部分がカバーされていた。また、先生方の経験からの言葉は、心に残るもの・身になるものばかりであった。
- ・ 先生方の経験に基づく貴重なお話が聞けて、とても良かった。
- ・ まだ、何がわからないか、わからない状態なので、まずは、わからないことをわかることからだなと感じました。
- ・ とても楽しく、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ どの話も、本当に自分のためになるものばかりでした。ありがとうございました。



## ■ 第31回教育フォーラムの開催報告

今年度2回目となる教育学部主催「第31回教育フォーラム」（共催：山梨県教育委員会、後援：甲府市教育委員会）が、平成30年2月21日（水）に「教師の意欲変容を促す方法と実践—OPPシートの検証をもとに—」をテーマに、山梨県立図書館で開催されました。この教育フォーラムは、教員が教育現場で直面する課題や関心に基づいたテーマについて議論することを目的としています。今回は、県内の幼・小・中・高等学校や特別支援学校教員、学生や卒業生、本学教員、教育関係者、一般の方々など、約75名の参加がありました。

今回のフォーラムは、コーディネーターに山梨大学教育学部教育学系長の廣瀬信雄氏、話題提供者として、山梨県総合教育センター所長の小川巖氏、パネリストに埼玉大学教育学部准教授の中島雅子氏、甲府市立甲府商業高等学校教頭の谷戸聡子氏、山梨大学理事・副学長の堀哲夫氏をお迎えし、平成29年11月に策定された「やまなし教員等育成指標」のより深い理解と達成を目指すことを通して、一人一人の教員が主体的に教育実践に取り組むことができ、自らの資質能力を向上させていくための具体的な方策について追求しました。

まずは、小川所長から、平成29年11月に策定された本県の「やまなし教員等育成指標～学び続ける教員のために～」について、策定の目的や背景から、本県が求める教員および校長の資質能力について、一覧表を資料に、丁寧に説明していただきました。教員等では、採用時から実践力養成期（第1ステージ）、専門性充実期・協働力養成期（第2ステージ）、指導力・協働力完成期（第3ステージ）の3つのステージに分け、その時期に必要な資質能力を「教職としての素養」および「教職としての専門性」で細かく分類・提示してあり、これらを活用することで、教員自身が自らを把握し、意欲的な研修が可能ではないかと話されました。

続いて、中島准教授は、OPPA論の自己評価を中心にして、教育実践における自己評価で授業改善をしてみませんかと提案されました。「評価とは成績をつけるものではなく、本来、改善のためではないか。」と訴え、OPPシートの取組により、学習者が自己評価できるばかりでなく、教師自身も授業改善の手掛かりとなると述べました。

谷戸教頭は、OPPA理論を校内研修に活用し、教師の意識改革を目指した取組を紹介されました。授業改善の視点について校内研修を行い、研修で学んだ考え方を反映させた授業を展開し、自分の授業につ

いて毎月振り返る取組を通して、教師の意識が変わり、日常的な授業改善へと変容していった様子について報告がありました。

堀理事からは、指導及び学習と評価の一体化を中心として、OPPA論の理論と実践について提案いただきました。学習者がOPPシートで資質能力を育むが、これを教師側に応用してみることで、学習者と教師の間の認識のずれを埋めることができたり、学習履歴と指導履歴の異同を確認し、修正を図ることができたりするのではないかと提案されました。

今回のフォーラムでは、「授業改善」というテーマを「難しいもの」「大げさなもの」と考えず、少しの意識でハードルは下がるのではないかと感じました。「まずはチャレンジしてみよう」と考えることができる会となりました。



## ■ 第4回連携・教育研究会（山梨県総合教育センター研究大会）報告

平成30年2月22日(木)、山梨県総合教育センターにおいて、「第69回山梨県総合教育センター研究大会 実践交流ラウンドテーブル2018」が開催されました。第4回連携・教育研究会と兼ねており、本学からは来賓として、田中勝附属教育実践総合センター長、アドバイザーの教育支援科学講座の鳥海順子教授、科学文化教育講座の松森靖夫教授、言語文化教育講座の田中武夫教授、芸術文化教育講座の大内邦靖准教授、教育支援科学講座の田中健史朗准教授、附属教育実践総合センターの堀之内睦男特任教授、岡田正志客員教授、小林大教授、成田雅博准教授、猪股真弥准教授の合計11名が参加し、ラウンドテーブルでは、ファシリテーター等も務めました。

この大会は、毎年、県内外の小・中・高・特別支援の先生方をはじめ、大勢の教育関係者が集まり、山梨県総合教育センターの今年度の研究の成果を発信するとともに、特別講演やラウンドテーブルなども行われ、多くの学びに触れ合える、よい機会となっています。

テーマを「やまなし 学びの未来」とし、特別講演・ポスター発表・ラウンドテーブルと、半日の日程でしたが、中身の濃い内容となりました。

特別講演では、『習得における「主体的・対話的で深い学び」とは ～教授と活動のバランスに配慮した授業づくり～』と題して、東京大学大学院教育学研究科教育心理コースの市川伸一教授から講演いただきました。活動・対話という型だけにとらわれずに、深い理解に到達したかに着目すること。そのためには、『教えて考えさせる授業』を実践してみたらどうかという提案もいただきました。具体的な課題例や導入校の児童生徒の変化の様子な



特別講演 市川伸一氏



ポスター発表の様子

どを織り交ぜて、授業づくりのヒントを聞くことができました。

ポスター発表では、山梨県総合教育センターの研究成果を所員がポスターにまとめ、30のブースに分かれ発表していました。内容は、新学習指導要領を見据えた具体的な方策や授業実践に役立つ教材等の研究、本県の教育課題や学校の要望を踏まえた指導法改善等の開発に関する研究などで、どれも、明日からの教育活動に役立つ内容でした。

ラウンドテーブルでは、各グループ5～6人の小グループに分かれ、センターの指導主事や本学の教員がファシリテーターとなり、小・中・高・特別支援の先生方が、校種の壁を越え、各校での実践や日頃の悩み等についての意見が出され、熱心に討議されていました。「やまなし 学びの未来」の創造に向けて、校内研究や教育研究の実践の広がりに出会うことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。



ラウンドテーブルの様子

## ■ 第92回国立大学教育実践研究関連センター協議会のご報告

センター協議会総会及び部門会議が、2月16日（金）に東京学芸大学で開催されました。山梨大学からは、堀之内特任教授、成田准教授、小林教授、猪股准教授の4名が参加しました。

総会においては、前回議事録の確認の後、「教育臨床」「教育実践・教師教育」「教育工学・情報教育」の3部門からの報告があった後、2016年度会計収支報告、2017年度予算案、昨年新設された個人会員の会費に関する細則について審議され当面は会費無料、ただし3年後をめどに再度検討する旨の、原案が承認されました。

午後からは、以下のように、富山大学の教育実践総合センター専任教員を4年間務められたことのある堀田先生の1時間の講演があり、新学習指導要領の作成に直接かかわってこられた経験も含め、全国の教育実践関連センターに期待する役割について具体的にお話されました。

- ・演題：新学習指導要領の実現に向けた教員養成大学及びセンター協議会への期待  
－教育の情報化の観点からの実践的・学術的寄与への要請
- ・講師：東北大学大学院教授 堀田龍也 先生

午後の後半は、各大学からの情報交換が行われ、宮城教育大学、上越教育大学等からセンターの改組、教職大学院等との関係、センターの目的・役割に関する事例報告等が行われました。2月末日までに各大学のセンターが執筆するセンター年報に、その点を記述するよう益子典文副会長から要請がありました。総会の後、3部門に分かれての部門会議が開かれ、教育実践・教師教育部門会議には堀之内特任教授、小林教授、猪股准教授が、教育工学・情報教育部会には成田准教授が出席し、研究討議、情報交換が行われました。

---

これまでのセンターだよりの一部は、 <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見ることができます。